


平成 29 年度 北方領土交流「教育関係者・青少年」訪問事業

～色丹島を訪問して～

ビザなし交流で色丹島を訪問された、黒部市立高志野中学校 入井 大介 先生に、「第 35 回 北方領土返還要求富山県大会」で体験報告をしていただきました。

その報告の際に使用された写真等の一部をご紹介します。

<p>平成29年度北方四島交流「教育関係者・青少年」訪問事業 ～色丹島を訪問して～ 8月17日～8月21日 黒部市立高志野中学校 入井大介</p>	
<p>日程</p> <ul style="list-style-type: none">* 8月17日 結団式・事前研修会* 8月18日 根室港出発・入域手続(国後島古釜布沖)* 8月19日 色丹島1日目* 8月20日 色丹島2日目* 8月21日 出域手続・根室港帰着	<p>色丹島を2日間訪問するという行程に対して、全日程が長くなる原因は？</p> <p>→ 現状では、ビザなし交流や墓参では、船を使用し、入域手続きができる場所が国後島沖に限られているため、時間をとられる。</p> <p>乗船時間が長いと、高齢の元島民の方たちにとっては、かなり負担だと思われる。</p> <p>空の航路の早期実現や、入域手続の簡略化・見直しの必要性を感じた。</p>
<p>根室港</p> 	<p>【8月18日】 ビザなし交流等使用船「えとぴりか」に乗船し、根室港を出港。</p>

国後島



国後島古釜布沖で入域手続きを行った後、色丹島に向かう。
国後島を間近にみる事ができた。

語り部講話



船内で行われた元島民 得能 宏さんの講話

得能さんは、映画「ジョバンニの島」の主人公のモデルとなった方。

ソ連侵攻や樺太の収容所へ送られた際の話とともに、島でのロシア人少女との交流を通して得られた友情・人類愛の大切さを語られた。

「今でも島に帰りたいたいと思っている」
「私のふるさとでもあり、みなさんのふるさとでもある」

北方領土問題の解決に向けての進展を望むとともに日露間の人的交流が深まることを一番に望んでおられた。

色丹島上陸



いよいよ、色丹島 穴間湾に上陸。

色丹島上陸





民族衣装をまとったロシア人女性による 「パンと塩による歓迎」

ロシアでは、パンにひとつまみの塩を添え客人を迎えるのは、最大級の歓迎とされている。



8月19日は、リンゴ祭の日。
ロシア正教会の「主の顕栄祭」という大切な祭日でもある。
リンゴを、はちみつにつけて食べる

色丹島代表者面会



日本からの訪問団代表と、斜古丹村村長及びサハリ州発展省の代表者によるプレゼント交換。



<島の入江>

語り部 得能さんの話では、国際的な船の避難場所とのこと。

最近のニュース…

ロシアが北方領土を経済特区が指定し、最初の事業として、色丹島に水産加工場を建設する予定だという。

約700人の雇用が見込まれている。

教育関係者との意見交換会



色丹島在住のロシア人との交流事業 (教育関係者との意見交換会)

<島での待遇>

- ・ 給料は本土の2.8倍。
- ・ 100%の手当に加え、居住後3~5年かけて80%の手当が支給される。
- ・ 年金支給は、本来30年の納付が必要となるところ、20年納付で支給される。

現在…

- ・ 島民が「日本」にふれる機会は、日本語講師派遣事業(ビザなし交流の一つ)のみだが、今年6月に教材を没収され今年度の事業は中止となったため、これからの実施が心配なところ。
- ・ 色丹島には、学校は高校までしかないため、大学進学のために若者は島を離れ、そのままロシア本土で就職し帰ってこない。

〔例…島出身の教師は5人で、ほぼ他地域からやってくる。〕

愛郷心についての質問に対しては、

- サハリン州の樺太から戻ってきて、就職する若者もいる。
- ⇒ 愛郷心教育の成功といえる。

- ・ 島の住民は、北方四島は、南クリル諸島(ロシアでの名称)として、当たり前のようにサハリン州の一部と認識している。
- ・ ロシア政府による入植政策は、今のところ、あまり成功していないようだ。

青少年交流



島在住のロシア人との交流事業 (ビーチボール)

子どもたちは、すぐに仲良くなっていた。

会場の「色丹アリーナ」

1年前にできたばかり。

〔できたばかりにしては、それほどきれいではない。〕

青少年交流



アリーナ2階のレスリング場・トレーニングルームで、事業に参加した日口の中高生が交流。

ロシアの若者からは、好きなものは、ゲームや動画、将来のやりたいことは決まっていない、といった発言があった。日本の若者とあまり変わらない。

青少年交流



ホームビジット



ホームビジット

夏休み期間中のため、島在住のロシア人は長期休暇をとっての旅行などで不在の家が多い。そのため、受入れ家庭の調整がうまくいかず、青少年の受入れが優先された。

レストランにて、ロシア人と夕食交流会が行われた。

すでに年金受給しつつ、インターネット回線工事・管理の仕事をしているという40代のロシア人男性は、

- ・自分は、色丹島で生まれ、大学を出た後、島に戻った、
- ・島は自分にとってもふるさとである。母親を亡くし、島に墓もある。島が日本に返還されたら、自分も日本人のように、墓参訪問すればいいのか？

と話していた。

領土問題について、ロシアによる島の実効支配が長く続くことから来る難しさを感じた。

一方で、男性は、昨年、日本への返還機運が高まっていたときには、スーツケースを用意していたという冗談も飛ばしていた。返還が実現される時に向けて、交流を深めていかなければならないとも感じた。

水産加工場見学



【8月19日】

(株)クリリスキー・ルイバクの工場見学
スケソウダラ・マダラ・サバ・イワシ
(現在)の加工や魚粉を製造している。

パイプライン…

港につけた船から、直接、魚を水圧
で送り出している。

水産加工場見学



新しい工場・冷蔵庫・社員寮を建設中

現在、24hで300tの原料を加工
→ 完成後は、1,000tを加工

現在、冷蔵庫1,000t保管
→ 完成後は3,500t保管が可能

図書館見学



プレハブの図書館

以前の建物は老朽化

⇒ 現在の図書館は、1994年の北海道
沖地震の際の救援物資の保管庫を
利用したもの。

図書館見学



図書館見学



図書館内でみた、ロシア側から見た北方領土の写真。この構図は、日本ではなかなか見られない。

学校見学



穴間中等学校 見学

〔小中高生が勉強している
127 人在籍 (200 人まで収容可能)〕

6~9 月まで夏休みのため、施設見学のみ
…授業を見ることができず。残念

1994 年の北海道沖地震で校舎が全壊したため、一時期、日本の支援で建設した建物を仮校舎にしていた。

見学した校舎は、2006 年にクリル発展計画の一環としてイルクーツクの建設会社により建設された。



現在建設中の新校舎。

色丹島には、穴間中等学校を含め 2 校がある。

近年、島には水産工場の労働者や、その受け入れのための家屋建設や新たな工場建設のための労働者が流入し、地元の人は治安が悪くなっていると感じている。

斜古丹墓地 墓参



<p>斜古丹墓地 墓参</p> 	<p>日本人墓地での墓参</p> <p>色丹島にいと、ここはロシアなのかと錯覚してしまうほど、当たり前前にロシア人が生活しているが、日本人墓地に墓参すると急に現実に引き戻された。</p> <p>逆に、それ以外の日本の痕跡は、色丹島の訪れた場所の中では、全く見る事ができなくなっている。</p>
<p>稲茂尻墓地 墓参</p> 	<p>墓がいたずらされることもあり、中には、物珍しさから墓石を持ちかえてしまうロシア人もいるらしい。</p>
<p>夕食交流会</p> 	<p>夕食交流会</p> <p>食事のほか、ダンスなども。</p> <p>向いあった二人の、額と額でリンゴをはさんで踊っている。</p>

【今回のビザなし交流でのロシア人との交流を通して感じたこと】

- ・ 領土問題について・・・とにかく話がかみ合わない。
 例えば、こちら側から「ここは日本の土地だと認めてくれさえすれば、そこに住んでもいい」としたらどうか尋ねるが、質問の意味が理解できないようだった。
- ・ 北方領土問題があることは知っているが、ロシア人にとっては「北方四島はロシア固有の領土」という意識が当たり前となっている。
 日本側が一方的に関心を示しており、ロシア人との温度差を感じた。
- ・ 交流をとおして、ロシア人に領土問題をはじめ、広く日本にもっと関心をもってもらう必要がある。